

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-64	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	現国 703	現代の国語		

1.編修の基本方針

①言葉による見方・考え方を働かせ、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- ・「読解編」の各単元扉に、その単元での学習目標を示すとともに、各教材で学習する主な目標も示しました。また、読解教材の「学習の手引き」において、学習が効果的に行えるようなポイントを示しました。
- ・「探究編」に言語活動教材を配置し、その活動と読解教材との関連を図ることで、「話す・聞く」「書く」「読む」の学習が、有機的・効果的に行えるようにしました。

②論理的思考力や伝え合う力を育み、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。

- ・論理的思考力を身につける教材として、人間・社会・言語などの分野の評論をバランスよく採録、配置しました。
- ・話し合ったり、書いたものを読み合ったりする活動を豊富に配置し、更に相互評価する活動を取り入れることにより、伝え合う力を養えるようにしました。
- ・「共に生きる」と題した単元では、「自立」をテーマにした3編の評論を読み比べることで、社会生活に関するさまざまな考えを検討して自分の考えを深めていくことができるようにしました。「科学から見た人間」と題した単元でも、「人工知能」について複数の文章を読み比べる学習が行えます。

③教材本文とコラム・附録とを有機的に関連させ、多様な学習に対応できるようにする。

- ・教材どうして、テーマや内容が特に関連するものがある場合には、「関連教材」としてリンクを示しました。
- ・「評論の型」「文章を読み比べるために」「図書館の利用法」「探究学習へのアプローチ」「グラフや写真の読み取り方」「引用の方法」といったコラムを掲載し、さまざまな文章・情報の読み解き方や利用の仕方などを分かりやすく示しました。
- ・「思考への扉」というコラムを5か所に掲載し、読解教材で取り上げられているテーマについて、掘り下げて考えることができるようにしました。また、読書に親しみ教養を高めるために、「思考への扉」に読書案内を掲載し、各単元に掲載している教材について、テーマや内容が関連する図書を掲げました。
- ・附録には、実用文も含めてさまざまな読解教材を掲載したほか、「評論文キーワード」「評論読解へのアプローチ」「思考ツール」といった資料を用意し、多様な学習に対応できるようにしました。
- ・附録として掲載した「この教科書で学ぶこと」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材について、どんな事項を学習するのかを一覧で示し、学習の見通しや振り返りに生かせるようにしました。

2.対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 視点を変える	・技術の進歩に伴い、人間が本来持っていた道徳が忘れられていくのではないかと指摘する評論を用意しました。(第1号)	→13～17ページ
	・水を鑑賞するという行為をもとに、日本と西洋との文化の違いを比較して述べる評論を用意しました。(第5号)	→18～23ページ
2 言葉へのまなざし	・コミュニケーションにおける歩み寄りの意義を説いた評論を用意しました。(第3号)	→28～32ページ
	・外国語の学習や、日本語と英語における色の認識の違いなどを例に、言葉の意味を知ることについて考察した評論を用意しました。(第5号)	→33～39ページ
3 メディアを考える	・人間にとって自由とは何かを、時間との関係で述べる評論を用意しました。(第2号)	→54～63ページ
	・オリジナルが一つだけだった時代と、複製技術の時代といわれる今日を比べ、現代の人間には何が必要かを述べる評論を用意しました。(第3号)	→64～73ページ
4 共に生きる	・生きていくうえで、相互依存のネットワークを伴った真の意味での自立を身につけていくことが重要であると論じる評論を用意しました。(第3号)	→76～82ページ
	・市場の特質を引き合いに出し、個人の自立について論じる評論を用意しました。(第2号)	→83～87ページ
5 科学から見た人間	・生物の多様性を守り、環境を保全するため、人間は何をすべきかを述べる評論を用意しました。(第4号)	→96～102ページ
	・人工知能との比較によって、人間が「自らの人生を生きる」とはどのようなことを論じる評論を用意しました。(第1号)	→103～111ページ
6 近代の先へ	・豊かな社会の中で、個人としてどのように生きればよいかを考察した評論を用意しました。(第2号)	→126～133ページ
	・個人が唯一の価値基準となった現代において、「私たち」のデモクラシーをいかに形作っていくかを問いかける評論を掲載しました。(第2号)	→134～142ページ
探究編	・料理のレシピなどの手順を整理してまとめる活動を通じて、職業および生活で求められる正確に伝える力を養う教材を用意しました。(第2号)	→160～165ページ
	・フードロスの問題などを題材にして話し合い、視野を広げながら社会的な課題の解決策を検討する教材を用意しました。(第3号)	→170～177ページ
	・題材を設定して情報を調べ、説明資料にまとめる活動を通じて、社会生活に生きる表現力を養う教材を用意しました。(第3号)	→194～200ページ
	・異なる主張の文章を読み比べ、自分の意見をまとめる活動を通じて、主体的に社会と関わる態度を養う教材を用意しました。(第3号)	→205～209ページ
	・パラスポーツなどを題材に、ポスターセッションによる発表やスライドを用いた発表をする活動により、幅広い知識や教養を身につける契機となる教材を用意しました。(第1号)	→229～236ページ

3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 中学校までの学習内容とのつながりを図りやすくするため、教材の採録箇所を工夫しました。(学校教育法第51条1号)
- 将来の進路の選択や、一般的な教養を高めることに資するよう、教材の中で多様なテーマを取り上げるとともに、読書案内を掲載して読書へといざなうように配慮しました。(学校教育法第51条2号)
- 社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身につけることができるように、言語活動教材において、スピーチ、話し合い、調査・発表、意見文、説明資料、レポートなどを取り上げました。(学校教育法第51条3号)